

北日本放送

活動名	KNB 読み聞かせ事業
実施期間	令和 6 年 12 月 21 日
実施回数	会場 1 回
配信期間	令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月
配信作品数	52 本

【事業実施の成果・課題】

当初朗読イベントは 2 回の予定だったが、インフルエンザや新型コロナウイルスの流行を受けて、子ども向けの読み聞かせ会の実施を見送った。毎年開催している文学館と連携した朗読会は人気行事として定着し会場には幅広い年齢層の来場があり、ふるさとの文学に触れる良い機会になっている。

担当の南アナウンサーは読み聞かせイベントの参加は初めてで本人にとっても貴重な経験になった。新年度は文学館のイベントに加え、弊社が運営する子ども向けの施設を活用して、読み聞かせ、朗読の催しを開催したいと考えている。

【事業担当者およびアナウンサー（読み手）の感想】

文学館での朗読会

<担当アナウンサー 南>

クリスマスに近い時期ということで「モミの木」を選びました。この「モミの木」は一瞬一瞬の時間を大切に、楽しみながら生きていこうと思わされる作品でした。

登場人物のそれぞれのキャラクターを想像して演じることに面白味がありました。

朗読番組「KNB ラジオ文庫」

<担当ディレクター兼アナウンサー 佐藤>

新人からベテランまでアナウンサーが作品選定から録音編集まで行う番組です。

俳優の朗読とは違い、聞いている人それぞれが自分の中で作品の風景を思いがけることができるよう、出すぎず引きすぎないアナウンサーの朗読番組として制作することを心がけています。

これらの作品を読むことにより、ニュースの読みや番組のナレーション、司会やリポート、ラジオのトーク番組など様々な場面の表現に生きているようにも感じています。

文章を読み伝えることの大切さ、面白さ、難しさを実感できる番組として今後とも大切にしていきたいと思っています。

【視聴者などの感想】

<文学館での朗読会 来場者の声>

「声のトーンや抑揚、演じ分けが素敵で聞き入っていた。ピアノ演奏とも合っていた。」

<朗読番組>

朗読ファンから担当アナウンサー宛に番組を聴いた感想が寄せられていて好評である。

ポッドキャストでは上位のほとんどがキー局、準キー局の制作番組が並ぶ中、コンスタントに 60 位以内にランクインしていて、時には 30 位台に入ることもあり、ローカル局の番組としては上位の再生回数を誇っている。

聴取者からは「8 年前に病気のため失明寸前になり、それ以来目を守るためにテレビよりもラジオを聴く時間を増やしました。SNS も音声入力にしました。

現在も朗読番組を中心にラジオを愛用していて NHK はじめ各局の朗読番組をよく聞きますが、必ず聞くのは KNB のラジオ文庫です」というメールが寄せられました。